

牛久のお宝

第1回 牛久市最古の石器



ナイフ形石器
(隼人山遺跡出土)

ナイフ形石器の使用例

(長さ8.5cm)

今回紹介したナイフ形石器は、かっぱの里ギャラリー(かっぱの里生涯学習センター内)で展示中

牛久市で最古の石器は、現在のところ、隼人山遺跡(ひたち野東)と馬場遺跡(ひたち野西)で見つかったナイフ形石器です。これらは平成5〜7年の土地区画整理事業に伴う発掘調査で、関東ローム層という赤土から出土し、その特徴から約3万年前のものとして推定されます。ナイフ形石器は、槍先として棒の先につけて使用され、オオツノシカやナウマンゾウなどの獲物を捕まえていたと考えられます。隼人山遺跡出土のものは栃木県北部にある高原山の黒曜石、馬場遺



跡出土のものは茨城県北部を流れる久慈川流域の珪質頁岩が石材として使われており、旧石器時代の人びとが広い範囲を移動していたことがわかります。

里山の樹木

問 都市計画課

☎内線2524

開花期の全景:ひたち野みずべ公園
平成26年4月19日撮影

第16回

ウワミズザクラ



花序:新地町林縁
平成22年5月2日撮影

花見時期を逃してしまつた方に朗報。開花期はソメイヨシノよりおそく4月中旬〜5月、葉が出た後に咲くウワミズザクラ(上溝桜)を探してみませんか。
バラ科、花形は写真のように白く長いブラシ状。落葉高木で、北海道以南から九州に

分布する。牛久では斜面林や雑木林に自生するほか公園でも見られる。果実は8〜9月頃赤から黒となり熟す。蕾の塩漬は杏仁香、実は杏仁香酒に利用され珍重される。上溝の名は昔、亀甲占いでこの材を彫つたという説から。また材が堅いことから金剛桜と呼ぶ地域もあるようだ。
※牛久の里山樹木ハンドブック12ページに掲載。本に関するお問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。
【資料提供】NPO法人うしく里山の会樹木リサーチ(文章:秋山由美子、写真:【全景】戸塚昌弘【花序】渡辺泰)

文芸さろん | 卯月 |

牛久から牛歩で綱に辿り着き
姫辛夷咲く競い啄む夫婦鶉
水仙のつぼみふくらむ日々たのし
春の風空中ブランコの吊しびな
なつかしき母とかぞえたお手玉を
孫に手渡す春の縁側
今日もまた目から涙の花粉症
じっと我慢の春明けを待つ
立雛の影の重なる白障子
一村のけぶらふ野焼日和かな

新井さん
堀さん
枝さん
岡村さん
草葉
竹やん
高階さん

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX: 873-2512
【記載事項】作品、氏名、電話番号、匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)